

2018年 7月 24日

助成事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人

ハンディキャップサポートウーノの会

代表者・役職名 理事長 田辺 広子

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

体を痛めることなく、軽作業を行う利用者みんなの力を引き出す事業

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期＝法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

「保谷市手をつなぐ親の会」有志により、検討委員会を設置。団体の形態として、NPO法人が相応しいと考え、申請手続きをする。2002年8月申請許可決定通知受理。2002年9月19日NPO法人設立登記をする。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

当事業所で行っている軽作業は、主に受注による封入などです。そのほとんどの最終処理は、結束、箱詰めが必要です。少しでも多くの工賃を得るため、払うためには数を多くこなすことが求められます。利用者の方々も、そのことを理解し、黙々と素晴らしい集中力で取り組んでいらっしゃいます。しかし最後の、結束とかなり重い段ボールを運ぶことによる負担が大きく、腰や手を痛める方が続いています。そこで、身体的負担を少しでも軽減することが必要と考えました。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

これまで軽作業の仕上げである、結束や箱詰めは身体的負担が大きいため、その多くを支援員が行っていましたが、機材導入が実現した場合には、その取り扱いを十分に周知したのち、利用者の方にも行っていただくようにします。また、これまで結束したもの、段ボールに詰めたものを全員で時間をかけて一つ一つ手で運んで、搬出していたものもかご台車を利用することにより、効率的に行うことが出来ると思われま

す。
このようにして、作業の納品から搬出までを全員で行うことにより、より一層の達成感を全員で共有することが出来るようになるのではないかと思います。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

購入させていただいた結束機は6月4日、かご台車は6月7日にそれぞれ事業所に届けられました。その時の皆さんの反応はまずは驚き、そして喜びへと変化しました。かご台車については、早速梱包を解き荷物を載せて、動かし、満面の笑みでした。男性の少ない職場で、力仕事は何かと男性(利用者、支援員ともに)が担っていましたが、今はみんなが同じように取り組むことができています。結束機は、常時使用するものではありませんが、興味津々、一人一人が自分が利用する番になるのを待っています。事業所自体、今回頂いた結束機、かご台車により、作業所らしくなり、仕事に対する姿勢が、とても積極的になってきました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

作業に取り組むためのハード面での整備は整ってきましたが、受注作業の量が一定せず、忙しい時と、そうでもない時の、利用者の方々のモチベーションが変わってきます。帳合、封入などの技術が向上しているので、忙しい時は、朝からモチベーションが高く、仕事への意欲が満ちています。利用者の方々の力をしっかり発揮していただけるようにするために、受注作業を増やしていく、営業活動に力を入れていくことが現在、今後の課題となっています。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり ・ 特になし